

# 主張

金属労協議長 西原浩一郎

## 「民間・金属・ものづくり」の立場から 『改革者』としてのチャレンジを

さる9月2日に開催された金属労協第47回定期大会において、加藤前議長の後を受け、新たに金属労協議長に就任することとなりました。

私自身、はなはだ微力ではありますが、幸いなことに経験豊富で責任感あふれる新役員体制をご選出いただきました。新役員一同、事務局メンバーの皆さんと力を合わせ、結成以来、国内および国際労働運動の両面にわたり、諸先輩の皆さんが懸命に積み重ねてこられた先駆的かつ価値あるJC運動の歴史的経過を踏まえ、諸活動の推進に全力を傾注してまいりますので、よろしくお願ひ申

上げます。

### 求められる変化に適確に対応する力の結集を

さて、我われの予想をはるかに超えて変化が常態化する時代背景の中、今、労働組合・労働運動には、変化の本質と方向性を見据え、それが勇氣をもって受け入れるべき変化なのか、あるいは果敢に抵抗すべき変化なのかを見極めるための英知と、変化に的確に対応していくための力の結集が求められています。

その際、特に金属労協に集う産業別組織は、産業・企業構造的にグロ

ーバル経済の進展がもたらす様々な影響を、直接的に受け止めざるをえない環境下にあることから、時代認識の共有化に努めながら、よりグローバルな視点に立って活動の充実・強化を図っていく必要がありますし、併せて、社会的側面での問題や課題に対する感受性を高めながら、働く者の立場からの必要な取り組みを進めなければならないと考えます。またその際には、労働組合の外に社会があり、そのことが我われの活動に影響を与えているという受身の姿勢ではなく、社会の中に、その重要な構成単位の一つとして労働組合が存

在しているという当たり前の事実を踏まえて活動していかなければならないと思います。

なお、90年代以降、グローバル化が急進展する中での政府・与党の競争至上、効率最優先の政策展開と産業・企業行動により、日本の経済・社会において「公正」という概念が後退し、社会全体が劣化の道を辿りつつある中であって、今、労働運動は、組織率や社会的影響力の低下、非正規労働者等の不安定雇用の増大、さらには様々な格差の拡大など、多様かつ重大な多くの課題・問題に直面しています。

ある意味、労働組合・労働運動そのものの存在意義が、社会から問われていると言っても過言ではない時代にあつて、金属労協としても、「民間・金属・ものづくり」の立場から、健全な労働運動の前進に向けて「改革者」の立場から果たしていかねばならない役割・責務には重大なものがああります。

また基幹産業としての金属を中心とするものづくり産業が、引き続き国民福祉の向上と日本経済の健全な発展に果たしていく役割の重要性には揺るぎないものがあると考えます。「金属労協に集う産業・企業の健全で永続的な発展」と「組合員の雇用・生活・働き甲斐の安定・向上」を不可分の関係として整理し、その両面での一体的な実現を目指していくために金属労協がチャレンジすべき課題は山積しています。

## 国際連帯の力でグローバル化の負の側面を克服しよう

当面の活動環境においても、米国

のサブプライムローン問題に端を発する国際金融市場の混乱が深刻の度合いを深める中で日本経済はもとより世界経済が全体として減速・後退局面にある中で、原油をはじめとする原材料価格の高騰・高止まりと資源制約、地球環境問題への対応、新たなプレーヤーの参入を受け激化の一途を辿るグローバル競争等、産業・企業環境は、総じて厳しさ募る状況にあります。

一方で、職場を基点とする課題も、高い生産性に裏付けられた金属産業の位置づけにふさわしい労働条件・就労環境の整備・確保、ワークライフバランスの実現、公正取引の推進等を通じた大手企業と中小企業間の雇用・労働条件格差の是正、増大する非正規労働者の処遇改善、労働安全衛生活動の強化、国内事業基盤の維持・強化の根幹を成す人材の確保・定着、技能・技術の継承・育成等、多岐にわたります。

すなわち日本の金属産業は、現在、構造的な変革期にあり、何よりも、産業に働く者の雇用と生活・働き甲

斐を将来にわたって守り高め、その将来展望を切り拓いていくための重要なターニングポイントに我々は位置しているものと考えます。

また、国際労働運動に目を転じれば、グローバル化の負の側面を国際連帯の力で克服していくことを目指し来年09年5月に開催されるIMF世界大会の成功に向けた金属労協としての責任ある対応が求められています。特に日系企業が数多く進出するアジアに焦点をあて、現地における健全な労使関係の醸成と、その前提となる各国金属労組への支援・サポートを中心とする国際連帯の取り組み強化は、我われ金属労協の極めて重要な責務と認識いたします。

## 金属労協全体のベクトルを合せ役割と責任を遂行

いずれにしても幅広い活動分野において、金属労協が成果を追求していくためにも、構成組織の期待や要望を真摯に受けながら、コミュニケーションの充実を通して、金属労協全体のベクトル・認識合わせに努めながら負託された役割と責任を精一杯、果たしていかねばならないと肝に銘じているところであり、金属労協に集う200万名組合員の皆さんの意思と意思を結集して、金属労協の活動の前進に努力してまいりますので、皆様のご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。



金属労協議長

### 西原浩一郎

にしはら・こういちろう

1953年8月生まれ(名古屋市出身)、慶大法学部卒。76年4月日産自動車入社。85年9月全日産労組専従。86年8月全日本民間労働組合協議会事務局次長、90年10月日産労連調査政策局長、92年10月全日産労組中央書記長、94年全日産労組中央執行委員長、97年9月日産労連事務局長、00年4月日産労連会長代行、同年9月自動車総連副会長、同年9月日産労連会長、08年9月、自動車総連会長(現)、金属労協議長(現)、08年10月連合副会長(現)